



## 0~3歳の「自由と夫見律の基礎づくり」

前回、お話しした従順性ができあがってくる4,5歳に向かって、0~3歳の時期月に、自由と夫見律の基礎づくりが大切だと書きました。では、「自由と夫見律の基礎づくり」を育てるには、具体的にどうすれば良いのか、今回お話ししていきます♪ まず、一番した方がいいのは...

『選択をさせる』ことです。いくらルールだから!!と言っても自分の中で腑に落ちないルールは、「何で??」と守りたくないですよね? それが何故、ちょっとずつ「自分もルールを守ろうかな」という気になってくるのかと言うと「守らなかった時に大変だったな」という結果を体験しているからです。

例えば、「おやつの前に手を洗いなさい」というルールがあったとします。

→ 先生に「手を洗ってないと食べられないよ! 早く食べたらおかわりもあるよ」と言われて...

「どうする? 洗う? 洗わない?」となった時に、子どもが「いい! 洗いたくないから洗わない」と言っています。これも、選択なのです。

→ 結局、その子は少し遅れて手を洗い、おやつを食べ始めましたが... 大好きなおやつだったのにおかわりができず「あ、もっと食べたかったな〜」という結果を体験することになります。

→ そうして、「この時は、皆みたいに手を洗った方が良かった。だから「洗いなさい」なんだ」という風に理解するのです。小さな事ですが様々な場面でこのようなことがあると思います。

ルールを「守るか、守らないか」の選択が月々になったとき、結果を体験して、「あ!! やっぱり「こうしなさい」って言っていた事をした方が良かったかな?」という感覚が、少しずつ、少しずつ育ててくるのです。これが「従順性」です。自分がルールに従わない選択をした結果、「本当に〇〇ができたかった」「えらいめにあった」という、その結果を体験した事が、従順性を作る基礎になっていきます。

0~3歳までの間に、「自分が選択をした結果に責任を持つ」、つまり、その「結果を体験する」ということが、その子の従順性を育て、それが結果的に、4,5歳以降の「自由と夫見律」を、しっかり守っていく事に繋がるということです。

ですから、ある意味、子どもは、こういった事を、「自分で学んだ」という事です。誰からか言われてやるようになったのではなく、自分がその体験をしたことによって、「こっちにした方が良かった」と、本当に感じる!! これこそが「内側から出てくる従順性」です。

→ モンテッソーリ用語で、「内なる教師」とも言っています♡

子どもは、「ルールを守りたい」しかも「ルールは守った方が得なんだな」とか「守った方がうまくいくなよ」という従順性を、自ら育てていくのです。

また、あうちで「しつけをする」という事を考えた時にも、この「自由と夫見律」の考え方は、すごく役に立つと思います。とにかく、「結果を体験させる」ということですよ!!

親としては、子どもが可愛いから、大変な状況になる前に、ついつい手を出して、救済してしまいたくなりますよね??

例えば...

\* 「ほら、〇〇に間に合わないよ、ちゃんと着がえて、くつはいて!!」

↓ 大人も焦っているんで、子どもがやるのを待たずに、親見が全てやってしまうと...

「イヤ、って言って、やらなくても、最後は親見が手伝ってくれて間に合うんだ」

...という体験をさせてませんか?

\* 「食べないんだ、たら、片づけるからね!」

↓ ...と言いつつ、結局、最後食べるまで、ずっと食事を置いておいたり、片づけるふりをして...

子どもが「やっぱり食べたいよ」と言ったら「もう、しょうがないわね、今日だけよ」とまた出す...

「うろろしたり、ふざけていても、結果的に食べられる」...という体験をさせていませんか?

これだと、内的な従順性というのは、育っていきません!!!

大人も「これ、こうしたら、こうなるよ!」と言ったなら、「大人側も言った事を必ず守る」ことが大事です。親見も覚悟を決めないといけません!!

「最終的に親見が尻拭いしてくれる。この経験を合わせてくれる」と、その味を占めてしまったら、子どもは「何も言うことを聞かなくなります。ルールを守ることでも、ルールを守っても守らなくても、結局は、一糸だよね?!!」と思ってしまう。

結果として、「ルールを守らなくても大したことない」と学んでしまうという、困ったことになってしまわないように、内的な夫見律・内的な従順性が、できるためには、「選択させて、その結果までを体験させる」ということが本当に大切だと、わかっていただけたでしょうか?

思い当たる所から、がんばって見直していきましょう♪